

実践のまとめ（第3学年 英語科）

佐渡市立金井中学校 教諭 大谷 智恵

1 研究テーマ

コミュニケーションを通して思考力・判断力・表現力を高める生徒の育成
～書く力の向上を目指して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、外国語科の目標を「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」とし、そのために、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせること」つまり「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」と述べられている。

これまでの指導では、特に「書くこと」の指導において、それが簡単な文であってもまずは表現することを重視して指導してきた。そのため相手意識が低くなり、内容が薄くなってしまうたり情報を上手く整理できなかったりする傾向にあった。また、「聞くこと、読むこと、話すこと」に比べ、個人での活動が多くなり、スローラーナーにとっては難易度が高く、課題に対して手が止まってしまう生徒が多いことも課題であった。

そこで本研究では、教師や生徒同士のコミュニケーションを通して自分の考えや表現を広げたり深めたりできる授業へと改善していきたい。コミュニケーションの内容や既習事項を整理し、相手の立場を考えて表現することができる生徒を育成したいという考えのもと、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 単元のゴールに繋がるような課題設定

バックワードデザインで単元を構成し、各授業が単元のゴールに繋がるような課題を設定する。このことにより単元末の課題において既習事項をどう活用したらよいかについて、生徒達の考えを促すことができると考える。また、授業の振り返りの時間に、目指すゴールの姿とどう繋がるのか、どの段階にいるのかを意識させたい。

② 中間指導の充実

中間指導の際に他の生徒が書いた英文についてペアで質問し合う活動を設定し、相手が知りたい内容を想起させ、相手意識をもたせる。その際、スムーズにやりとりができるようにするため、帯活動等を使って英語でやりとりをする活動を継続的に行い、可能な限り英語でコミュニケーションをとらせたい。評価基準と照らし合わせ、どの視点で見たら良いかを助言し、よりよい内容にするために何を書いたら良いのか、どう書いたら良いのかを生徒同士で話し合わせ、中間指導の充実を図る。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 目的・場面・状況に応じ、相手意識をもった内容で表現することができる。（英作文）
- ② それまでのコミュニケーション活動を思い返し、自ら進んで表現しようとする生徒が増える。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Lesson 5 I Have a Dream (NEW CROWN 3 三省堂)

(2) 単元（題材）の目標

- ① 紹介したいものについて、関係代名詞that、which（目的格）、後置修飾（名詞を修飾する文）などを用いて、自分の考えや気持ちを正確に書く技能を身に付ける。
- ② A L Tの先生が休日に家で楽しめるものを知るために、おすすめの作品について、簡単な語句や文を用いて、事実や自分の気持ちを整理して表現することができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 関係代名詞that、which（目的格）、後置修飾（名詞を修飾する文）の特徴やきまりについて理解している。 ・ 作品や人物を紹介する際に関係代名詞や後置修飾などの簡単な文や語句を用いて書く技能を身に付けている。	A L Tに自分のおすすめの作品の魅力を紹介するために、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	A L Tに自分のおすすめの作品の魅力を紹介するために、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全10時間、本時9／10時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (2)	・ ゴールの姿の共有 （A L Tによるキング牧師が題材の映画紹介） ・ 関係代名詞that、which（目的格）のきまり	◎お気に入りの場所やものについて関係代名詞を用いて話したり書いたりする。 ◎関係代名詞を含む英文を聞いたり読んだりしてその内容を捉える。	知・技 関係代名詞を用いて表現することができる。 【ワークシート】
2 (2)	・ 後置修飾名詞を修飾する文）のきまり	◎今までの経験で一番良かったものや一番好きなものについて後置修飾を用いて話したり書いたりする。	知・技 後置修飾を用いて表現することができる。 【ワークシート】

		◎後置修飾を含む英文を聞いたり読んだりしてその内容を捉える。	
3 (3)	・キング牧師について書かれた文章を読んで概要を捉える。	◎キング牧師について時系列で話をまとめる。	
4 (3)	・おすすめの作品について、必要に応じて関係代名詞や後置修飾を用いながら英語で書く。	◎例文を見ながらどんな情報が必要か考える。 ◎おすすめの作品について、どんな内容で書いたら魅力が伝わるか、考えて表現する。 ◎ペアで質問をし合い、必要な情報を想起させ合う。 ◎相互に添削する。	知・技 正確に英語で書くことができる。 【ワークシート】 思・判・表 読み手が必要とする情報が何かを考え、情報を整理しながら書くことができる。 【ワークシート】 主体的 読み手を意識するために、友達と積極的にやりとりを行っている。 【振り返りシート】

4 単元（題材）と生徒

(1) 単元について

本単元では言語材料として関係代名詞（目的格）、名詞の後置修飾を学習する。Lesson 3 で分詞の後置修飾、Lesson 4 で関係代名詞（主格）を学習しており、英語の文法に見られる後置修飾の形にある程度慣れてきている頃である。また、これまでニュアンスに沿うように2文で表現していた文章についても、1文で表現できるようになる。表現の幅が広がったことで、どのように書いたら伝わりやすいかを考えさせたい。

また、本単元では充実した休日を家で楽しみたいALTに対して、自分のおすすめの作品について紹介する文章を書く。どのように書くかだけでなく、何を書いたら魅力が伝わるかについても考えさせたい。

(2) 生徒の実態

集中して課題に取り組むことができる生徒が多く、分からないことがあれば友達に尋ね学び合う姿が見られる。ペアワークや班活動などでは協力して進めている。一方で、課題の難易度が上がると諦めてしまう生徒が多く、間違いを極端に恐れる傾向がある。特に書く活動では手が止まってしまう生徒が一定数見られる。書きたい内容や伝えるべき情報よりも、書ける内容で書こうとする生徒が多い点も課題である。また、どの順で情報を伝えれば伝わりやすいか等の文章の構造まで考えられる生徒は少ない。本単元では相手意識の大切さに気づかせながら表現させたい。

5 本時の展開

(1) ねらい

対話を通し、何を書いたら良いかを考えて、まとまりのある英文を書くことができる。

(2) 展開の構想

- ①ペアでの質問活動を取り入れ、どんな内容を書いたら良いか考えを促す。
- ②評価基準に照らし合わせ、良い点を共有し、内容面でフィードバックを行う。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動 ◎教師の働き掛け S 予想される児童（生徒）の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 7分	○スモールトーク ○課題の提示 ジョセフ先生に向けて、おすすめの作品について紹介文を書こう！ ◎評価基準を提示する	○この後の活動で使えそうな話題で行う。
展開 38分	○個人での英作文（1回目） S：何を書こうかなあ…。 S：徐々に手が止まり始める。 ○中間指導 相手の英作文を読み、その内容についてペアで質問をしあい、書き足す内容をメモする。 S：Which song do you like the best? ---I like… ◎作文の良い点を全体で共有する。 ○再度個人での英作文（2回目）	○机間指導を行い、手が止まっている生徒に足がかりとなるような質問をする。 □対話を通してよりよい内容にしようとしている。 【主】 □読み手が必要とする情報が何かを考え、情報を整理しながら書くことができる。 【思・判・表】
終末 5分	○振り返りシートの記入	□本時を振り返り、次回に活かそうとしている。【主】

(4) 評価

- ①読み手が必要とする情報が何かを考え、情報を整理しながらワークシートに書くことができる。【思・判・表】

A：紹介する作品特有の具体的な情報が4つ以上入っており、かつ伝える順序を工夫している。

B：紹介する作品特有の情報が3つ以上入っている。
- ②友達と積極的にやりとりを行い、読み手を意識した文を書こうとしている。【主体的】

A：積極的に友達とやりとりし、その内容を2回目の英作文に活かしている。

B：友達とのやりとりや全体共有の内容を2回目の英作文に活かしている。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

① ゴールの姿の共有（第1次）

単元の始めにALTから「秋・冬になると外に出かける機会も減り、暇な時間が増えるため家で楽しめるものを教えて欲しい。音楽や映画、アニメ、マンガなどが良い。」と生徒達に投げかけた。また、ALTからは単元のテーマに関わる内容である、キング牧師についての映画「SELMA」についての紹介を実際にしてもらうことで、ゴールの姿を共有すると共に単元への興味関心を抱かせた。

② 帯活動

単元の始めから毎時間帯活動の際にペアでのスモールトークに取り組ませた。話題については単元末で生徒達が紹介する予定のアニメや映画、歌や歌手などを取り入れた。これはどのような質問をしたらよいかを考えさせ、表現を定着させるためである。毎回2度行い、1度目が終わってから生徒達にフィードバックを行った後、ペアを変え2度目を行う形で継続して行った。単元の始めには会話が30秒間も続かないペアが多かったが、単元末にはほとんどのペアが45秒間会話を続けることができるようになった。

③ グループでワーク（第4次）

研究授業の前時に、教師側から不十分なモデル文を提示し、魅力的な紹介文にするためにはどのような情報が必要かを生徒達に考えさせ、英語で質問させた。その後グループでどう表現したらよいか、どの順番で情報を書いたらよいかを考えさせ協力して紹介文を書かせ、全体で表現方法の共有を行った。グループで作文を行うことで、スローラーナーにとっての次時への心的ハードルが下がったと考えられる。

④ コミュニケーションを通して、内容面の改善を図る作文（第4次）

研究授業では、内容面に重点を置いて作文を書かせた。大切なポイントがどこにあるかに注目させるため、モニターには活動中ルーブリックを提示しておいた。1回目の作文では途中で行き詰まり手が止まった生徒も、その後のペアワークで質問をしあうことで2回目の作文ではよりよいものを書くことができるようになった。

(2) 研究テーマに関わる評価

- ① 1回目の作文の後に英語でのやりとりを行うことで、2回目の作文では全ての生徒が量的にも内容的にも1回目比で充実した作文を書くことができた（図1）（図2）。

＜生徒Aの1回目の作文（原文ママ）＞

The movie I recommend is *Tenku no shiro Rapyuta*. It is about an fantasy. It is main character is
(これ以上は時間切れで書ききれず)

図 1

＜生徒Aの2回目の作文（原文ママ）＞

The movie I recommend is *Tenku no shiro Rapyuta*. It is about an fantasy. The main character is *Shita* and *Pazu*. My favorite character is *Musuka*. The best scene is when *Pazu* helped *Shita*. And makes me excited.

図 2

また研究授業では、内容面に重点を置くことを授業の始めに伝えたのも効果的であった。以前は間違いを恐れて手が進まなかった生徒も、書きたい内容が増えると共に手を動かす姿が見られた。評価タスクである定期テストでの英作文においても、学級全体として書く文量が増えていた。

- ② 学習タスクである今回の課題における生徒に示した評価基準は（図3）の通りである。正確さでは19人中A評価17名、内容面ではS評価4名、A評価15名、語数は全員がS評価であった。内容面に関して、ペアワークを取り入れることで作品特有の具体的な情報を増やすことができた。また、情報を伝える順序について意識している姿が見られるようになった。一方でS評価である「ALTの先生がやってみたい」と感じるかという点については十分ではなく、相手意識の不足を感じた。

	正確さ	内容	語数
S		A評価クリア+ALTの先生がやってみたい（見てみたい）と思う内容である。	40語以上
A	文法的なミスがほぼなく、ALTの先生に書きたい内容が正確に伝わる。	おすすめする作品と、どう体験できるのかに加え、作品特有の具体的な情報が4つ以上入っている。 伝える順序を工夫している。	35語以上
B	文法的なミスはあるが、ALTの先生に書きたい内容が伝わる。	おすすめする作品と、どう体験できるのかに加え、作品特有の情報が3つ以上入っている。	25語以上
C	B評価達成ならず	B評価達成ならず	25語未満

図3

(3) 今後の課題

① ALTのニーズについて

内容面の更なる充実を図るため、ALTのニーズについて提示、共有できると良いと感じた。課題を提示した際「音楽や映画、アニメ、マンガなどが良い」と伝えたが、中でもALTが今までに見たことがある主な作品や、どんなジャンルが好きか等の情報を生徒と共有できていれば、生徒はそれを基に作品を選ぶことができたと考えられる。今回は生徒の好きな作品を紹介したが、ALTがその作品について既に良く知っている、という状況が生まれてしまった。既習事項である現在完了形等を活用してALTに質問する時間を設けることで、より相手のことを考えた紹介文を書くことができるようになると考えられる。

② 相手意識について

ペアで質問をする際、紹介文はALTに向けてのものであるという目的の意識が低かったように思われる。紹介する作品の内容について、知識のないALTに対してどのような情報が必要かをもっと考えさせた上で質問することにより、作品についてよりよく伝えることができるのではないだろうか。だが一方、ハリーポッターの主人公は誰か」等、ALTが明らかに知っているであろう質問をしている生徒も見られた。他の誰でもなくALTに向けた紹介文という意識を持たせることで、より良いコミュニケーション、そしてより良い文章を書けるようになると考えられる。

<参考文献>

文部科学省（2018）.『中学校学習指導要領解説 外国語編』 東京：開隆堂出版株式会社
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語」文部科学省
(2020.2)